



赤羽別院報 第45号  
 発行所 真宗大谷派 赤羽別院 親宣寺  
 〒444-0427  
 愛知県西尾市一色町赤羽上郷中14  
 Tel・FAX (0563)72-2308  
 Eメール akabane\_betuin@katch.ne.jp

# 恩を生きる



コセ・クヨクヨ・プリプリ・ネチネチ「これを「イコクブネの心」といって、この五濁心が表われているのです。」

私たちがとりまいてる生活の中で、忘れていい事と忘れてはならない事があります。真生活の中では、忘れていい事が忘れられず、忘れてはならない事を忘れてしまおうか、私たちの生活の姿と云っていいのではないのでしょうか。

昔から忘れていい事に五つあると云われています。即ち、「うらみ・つらみ・ねたみ・そねみ・ひがみ」で、これを「五み」といって、なるべく早く忘れた方がいいといわれます。しかし、私たちはこの五みがなかなか忘れられないんです。家の中のゴミは片付けないと部屋が汚れるばなしです。それに対し、この心の五みを忘れることができないと私の心を汚していくことを濁心といひ、この濁心にもやはり五つあり、私たちの心の汚れ、即ち「イライラ・コセ

## 恩に生きる

その逆に、忘れてならない事は何かと云うと、たった一つ「恩に生きる」と云う事です。私の心の中に恩に生きるという気持ちが生れてくるが、人間には必ず感謝の心が芽生えてくるのです。そうすると、口から出てくる言葉は「ありがとう・ごめんさい・お世話になりました」という感謝の言葉で、感謝の生活も生れてくるのです。

ある有名な言語学者が、人間は果して一日にどれくらい喋るか研究されたところ、勿論個人差はありますが、平均すると2万語喋るそうです。この2万語の言葉を分析してみると、8割が文句や愚痴ばかりだそう。私たちが普段文句や愚痴ばかり言いがら生活しているという事になります。そんな馬鹿なと思われませんが、お釈迦さまもきちんとお経の中で教えて下さっています。

『観無量寿経』の中で、「我今、愁憂す」と教えていて下さる。「我々はどこに身を置いてても心が晴れない」、「あなたはどこにいても文句や愚痴ばかりを言いがら生活をなさっておられますね」とお釈迦さまは私たちに生き様をおさえておられます。

私たちは三六五日、どこに身を置いていても心が晴れないんです。私たちは何時の間にか、不平・不満・文句を並べながら、限りある命をすり減らしている。こういう生き方を「空しく過ぐる」と云うんです。これは生きた値打がありませんよと云うことです。

■講師プロフィール  
**堀田 護** (ほった まもる)  
 1944年 愛知県生まれ  
 大谷大学真宗学科卒業  
 元 三河別院別座  
 現 全国准堂衆会事務局長  
 岡崎市 本宗寺住職

して残されておられます。その中で有名な言葉が「恩を知らないものは畜生に等しい」ということです。ところで、仏教って何ですかと云った時、一言で言えば「人が仏になるために、仏が説いて下さったみ教え」ということです。

ですから、仏教は人間に向かって説かれていたんです。それは、仏様がこの私たちに人間として生きてほしい、み教えを通じてそれを受け止めて下さいという事です。それを自覚と云うのです。

言と一人であることを前提とするのではなく、人であることを問うことを出発点とする」ということで、これを仏教的自覚と言います。

「恩(めぐみ)」というものを通して、あなた人間として生きていくには、智慧と慈悲に目覚める心を持つていくのが人間です。犬や猫は持っているが、人間に生まれたものは皆智慧と慈悲の心を持っています。



## 智慧と慈悲

人間に生まれたものは皆智慧と慈悲の心を持っています。犬や猫は持っているが、人間に生まれたものは皆智慧と慈悲の心を持っています。智慧と慈悲に目覚める心を持つていくのが人間です。犬や猫は持っているが、人間に生まれたものは皆智慧と慈悲の心を持っています。

私たちが家の中には智慧の光を点火させるものがない事。私たちが家の中には智慧の光を点火させるものがない事。私たちが家の中には智慧の光を点火させるものがない事。



この頃の人間は「半人前」になったんですね。半人前とは、朝起きた時は家族と「おはよう」の挨拶を交わすけれど、夜寝る時の「おやすみ」の挨拶がなくなってしまう。だから半人前なんです。それは私たちの生活から家庭が「なりつつある」ということで、「恩」を受け止めて、育てる心が私たちの生活の中から失われてしまひ、不平・不満・文句ばかりが出る生き方になってしまったのです。

ある小学校一年生の子どものさんが書いた作文です。「行ってきます、行ってらっしゃい、行ってきます、行ってらっしゃい、お母さんの声がついてきたよ、お母さんの声がついてきたよ、お母さんの声がついてきたよ、お母さんの声がついてきたよ。」

僕のことを常に見守り心配してくるお母さんや家族がいて、何気ない挨拶の裏側にあつて、何気ない挨拶を受け止めてくれる深い温もりを受け止めてくれる心。その大切な心が私たちの生活の中から失われつつあるのです。

私の好きな言葉の一つです。「寒いね」といいたら寒いね!と答える心の温もり、心の温もりが受け止められない。そうなる私たちが「不平・不満・文句」しか見えないような生き方になってしまうのです。

東井義雄先生は「私たちの口から出てくる『南無阿彌陀仏』とは、阿彌陀如来さまが「持っているか、幸せを見つめるまなこ」で「育てて下さるか喜びを感じる心」と呼びかけて下さる呼び声です。」と教えて下さいます。

あなたの心の目を開いてみれば、囲りにには喜ぶべき事や喜びむべき事が沢山あります。その事を受け止めて、その心を育てていくことが大切で、それが「恩(めぐみ)」の中を生きていくことなのです。

最後に「拝む心」が大切です。赤羽別院・曉天講座  
 赤羽別院 講師 堀田護 師講話要旨

**別院行事のご案内**

除夜の鐘(初鐘) じよのかね(はつがね)  
 12月31日(木) 午後11時30分より  
 先着順になたても鐘撞きできます。  
 甘酒・お菓子等を用意しています。

修正会 しゅしょうえ  
 1月1日(金) 午前1時(初鐘に引き続き)  
 法話 輪番 三浦 真教師

双全講 そうぜんこう  
 1月15日(金) 午後1時30分  
 法話 第19組 勝賢寺 野々山祥寛師

真宗講座 しんしゆこう  
 テーマ「御文」に学ぶ  
 第1回 1月28日(木) 午後2時~4時  
 第2回 2月25日(木) 同  
 第3回 3月24日(木) 同  
 講師 同朋大学特任教授 廣瀬 惺師

学習会 がくしゅうかい  
 2月9日(火) 午後1時~4時  
 テーマ「七條袋袋着替及装束作法」  
 講師 第8組 宿禰寺 堀田 顯慶師

春季彼岸会 しゆんきびがんえ  
 3月20日(日) 午後1時30分  
 法話 第14組 専興寺 浅野理子師  
 3月21日(月) 午後1時30分  
 法話 六ツ美組 本光寺 稲前 恵文師

帰敬式 ききようしき・帰敬の集い  
 帰敬の集い 3月28日(月) 午後2時  
 帰敬式 4月11日(月) 午前11時  
 詳細 2ページに記載のとおり

報徳会 ほうとくえ  
 4月11日(月) 午後1時  
 法話 第8組 安樂寺 伊奈 恵祐師

晨朝法話 じんしやうほうわ(午前七時)  
 1月13日(水) 第11組 唯法寺 占部 卓師  
 1月28日(木) 同 聖運寺 泉 敬祐師  
 2月13日(土) 第12組 篤信寺 菱川 陸師  
 2月28日(日) 同 浄念寺 吉良 優師  
 3月13日(日) 第13組 隆勝寺 小原 隆口師  
 3月28日(月) 同 良宣寺 伴 正一師

**お世話方々を感謝しています!**  
 どなたかお手伝いいただけませんか?  
 自薦・他薦歓迎 詳しいことは赤羽別院  
 電話 〇五六三二二一三〇八まで



# 謹賀新年

## 新年おめでとうございます



輪番 三浦 真教

新春のお慶びを申し上げます。平素は、赤羽別院が取組む各種事業に格別のご理解とご協力を賜り厚く御礼を申し上げます。

輪番を拝命してこの方、皆様方からいただいたご指導とご鞭撻に対し、深甚なる謝意を頭わず次第であります。

平成27年度は、恒常的な赤字体質の脱却を目指し、教化センター事業を含め緊縮予算のもとで、スタッフ一同頑張っております。

昨年、日常業務のお手伝いをお願いしている3名の世話方さんが、高齢と健康を理由にその任を離れられ苦しんでいるところであり、頭の挨拶と致します。

目録に努めて参ります。最後に、赤羽御坊新聞のご門徒さんへの配布の徹底方々のご配慮と、赤羽別院に対し一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

新年おめでとうございませう。今年も、赤羽別院が地域弘教の拠点としての活動を担い、寺院不要論をはじめとする仏教頑廃が懸念される今日の風潮打破に努めて参ります。宗敬寺院をはじめご門徒・有縁の方々の倍旧のご指導・ご鞭撻・お力添えを賜りますようお願い申し上げます。

## 年頭に当って

教化センター主幹 間島 享

新年おめでとうございませう。第3期を迎えた地域教化センタースタッフの任期は残り1年余となりました。

財務状況等の厳しさは続いておりますが、教化事業の更なる充実に取り組んでおります。

昨年、宗敬区外の桑名・横浜別院をはじめ、遠近各地よりご来院ご参拝をいただきましたが、このことは当別院が発行する季刊新聞「赤羽御坊」による広報効果に負うところと自負しております。

今後、別院が地域弘教の拠点としての活動を担い、寺院不要論をはじめとする仏教頑廃が懸念される今日の風潮打破に努めて参ります。宗敬寺院をはじめご門徒・有縁の方々の倍旧のご指導・ご鞭撻・お力添えを賜りますようお願い申し上げます。

## 秋季彼岸会厳修

境内を吹き抜ける風に清々しさを感じ、9月22・23日の両日、赤羽別院では秋季彼岸会が厳修された。

法話は「初日に第11組患教寺・大河内真慈師、二日目は第12組玉照寺・小栗實次師が、真宗門徒が日々の生活の中で感じることを熱く話された。

昨年、携帯電話やスマホで言葉の意味を容易に調べることができ、意外に明確に書かれていない事柄の一つが「お彼岸だ」と思われる。浄土に憧れ、地獄で生活する私達にとって、浄土は「忘れていませんか? 地獄・餓鬼・畜生の根性を持っていませんか」という教えを表わすために残された教訓であり、先人からの贈り物のようなものかもしれませんね。

## お世話方はじめ 大勢のご門徒の奉仕

真宗寺院で最も大切な仏事である報恩講を迎えるに当たっては、9月26日にお勤めの練習会・助音講を皮切りとして着々と準備が進められました。

10月1日に赤羽ブロック世話方会や地域世話方の皆さんにより、お御堂、お庫裏のガラス拭きをはじめ境内の落葉掃き等の大掃除や、仏具のお磨きが行われ、日頃は行き届かない所もきれいにしました。

10月3日(二回目)の助音講、11日第13組門徒会員によるお華東作りが行われ、報恩講当日には地元元年行司の方々にお祈りのお世話をいただきました。

## 帰敬式を 受式しませんか!

【帰敬式(おかみそり)は、生前に法名をいただき、南無阿彌陀仏の教えに生きること証す真宗門徒としての出発式であります。

赤羽別院では、本山より鍵役をお招きし、左記により帰敬式を執行します。

あなたも受式しませんか!

期日 4月11日(月)

## 真宗講座 開催のお知らせ

赤羽別院では、次により平成27年度真宗講座を開催します。是非、お出かけ下さい。

第1回 1月28日(木)  
第2回 2月25日(木)  
第3回 3月24日(木)  
各日共 午後2時より

テーマ 『御文』に学ぶ

講師 同朋大學特任教授 廣瀬 権師

受講料 一回につき 500円  
その都度、受付においてお支払下さい。



10月14日  
10月16日

## 親鸞聖人の御命日(11月28日)にお勤めする、真宗門徒にとって最も大切な御仏事の報恩講が、赤羽別院では10月14・16日の3日間、さまざまなたんの協力により厳修された。

## 親鸞聖人のみ教えに感謝 報恩講を厳修

出来事を通してお話くださった。二日目は、今年度発足した赤羽ブロック世話方会の皆さん方の団体参拝を得て、第13組長壽寺住職・和田純悟師より、「御文」の中で最も知られている「白骨の御文」についてお話された。

※法話後に第五回みどりコンサートが催されたが、そのようには下欄に記載。

三日目には、第7組心城寺住職・天野義敬師による「報恩講」をテーマとする法話を戴いた。(内容は次号・46号巻頭に記載の予定)

3日間共大勢の参拝を戴き、日ごろの生活の中での

## 美ら歌コンサート 三河仏壇職人が歌う 沖繩のこころ

五回目となるみどりコンサートは、報恩講2日目の法話に引き続き、沖繩と酒好きが縁で結成三年を迎える、三河仏壇の金貼り職人グループ3人組「曾根良子と美ら島くず」を招いて開催された。

沖繩三線と太鼓の演奏で、沖繩民謡を含め、「涙そうそう」、「花」など全9曲が披露された。

沖繩の音楽は、青い空と透き通る海が目に見え、ゆったりとした時の流れを感じさせ人の心を癒すものがある。終始、リーダーの曾根さんの軽妙なトークで進められたコンサート最後の「ハイサイおじさん」の曲に乗り、身振り手振りの踊りで堂内が一体となる盛り上がりを見せ、盛会裏にその幕を閉じた。

## 日本堂の改築 その4

元禄13(一七〇〇)年創建・寛政10(一七九八)年に東本願寺の直轄寺院「赤羽別院本目山親宣寺」となった親宣寺は、文政4(一八二二)年9月の二度の大雨により、当時が普賢きであった屋根が大被害を受け、御本尊の御絵像をはじめ、本堂の内外等建物全体が悲惨な程の災害に遭った。

赤羽村の百姓代表である茂左エ門が、村人衆に呼びかけ、日夜を問わない応急の修理工事をを行い、元の寺の姿に戻された。

この折の赤羽の村人衆の献身的な奉仕の姿に、隣接する村の人々から称讃の声があがり、感謝の意が表されることにも、米一俵と金一封の奉納と併せて「何時でも奉仕する」旨が申し伝えられた。

本堂等の改築であったが、

伊勢湾台風で倒壊した旧本堂

親鸞聖人の御命日(11月28日)にお勤めする、真宗門徒にとって最も大切な御仏事の報恩講が、赤羽別院では10月14・16日の3日間、さまざまなたんの協力により厳修された。

報恩講は、今の私たちの日常生活を振り返り、改めてお念仏にお出遇いさせていただく大切な法縁です。

初日には教区内3別院輪番の後座出仕のもと、3別院間にわたって崇敬法中の出仕・列座・助音講と大勢の参拝者の皆さんのお勤めの声が室内に響きわたった。

法話では、初日に第25組守綱寺坊守・渡邊尚子師を



天野義敬師の法話

お招きしたこともあり、女性や坊守さんが参拝される姿が多く見られた。

師は、自ら選定に關つた、先の親鸞聖人七五〇回御遠忌テーマ「今、いのちがあるなを生きている」について、日ごろの生活の中での



美ら歌コンサート

五回目となるみどりコンサートは、報恩講2日目の法話に引き続き、沖繩と酒好きが縁で結成三年を迎える、三河仏壇の金貼り職人グループ3人組「曾根良子と美ら島くず」を招いて開催された。

沖繩三線と太鼓の演奏で、沖繩民謡を含め、「涙そうそう」、「花」など全9曲が披露された。

沖繩の音楽は、青い空と透き通る海が目に見え、ゆったりとした時の流れを感じさせ人の心を癒すものがある。終始、リーダーの曾根さんの軽妙なトークで進められたコンサート最後の「ハイサイおじさん」の曲に乗り、身振り手振りの踊りで堂内が一体となる盛り上がりを見せ、盛会裏にその幕を閉じた。

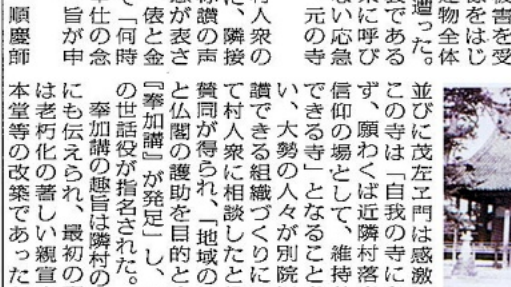
## 赤羽別院の歴史 その4

元禄13(一七〇〇)年創建・寛政10(一七九八)年に東本願寺の直轄寺院「赤羽別院本目山親宣寺」となった親宣寺は、文政4(一八二二)年9月の二度の大雨により、当時が普賢きであった屋根が大被害を受け、御本尊の御絵像をはじめ、本堂の内外等建物全体が悲惨な程の災害に遭った。

赤羽村の百姓代表である茂左エ門が、村人衆に呼びかけ、日夜を問わない応急の修理工事をを行い、元の寺の姿に戻された。

この折の赤羽の村人衆の献身的な奉仕の姿に、隣接する村の人々から称讃の声があがり、感謝の意が表されることにも、米一俵と金一封の奉納と併せて「何時でも奉仕する」旨が申し伝えられた。

本堂等の改築であったが、



伊勢湾台風で倒壊した旧本堂

地元の先人達の熱意と苦勞が親宣寺の繁栄をもたらした。本堂等の新築に繋がった。世間の人々は、寺と人・人と人の絆を結んだ地元の先人達を「門前の人達」と称して尊敬した。以降、赤羽別院の総代・世話方には門前の人達がその任務に就任するようになった。

(つづく)

# 六ツ美組・浄光寺一行ご来院

師走に入った12月2日、岡崎市中島町の六ツ美組・浄光寺の「仏法を聞く会」の一行24名が当別院に参拝された。

一日研修の一環として立ち寄られたもので、お御堂において三浦輪番より、大型プロジェクターを使用して、当別院の歴史や、教化センターが取り組む各種行事について、ていねいに説明等がなされた。

その中で、昭和34年に当地を襲った伊勢湾台風で倒壊した、文政7(一八二四)年に改築の旧本堂をはじめ、庫裡等の大伽藍の景観が映し出された。

岡崎と西尾市は至近距離にあるが、当別院へは初めての方が多く、到着時に目の当たりにした荘厳な山門が、



浄光寺一行の参拝の様子

## 第10組 一行46名 本山報恩講団体参拝



慈願寺住職のお話を拝聴

第10組恒例の本山敬修御正忌報恩講団体参拝は、11月25・26日の行程で中日中にお参りした。

本山に到着した一行46名は、修復中の御影堂門を潜り、ゆるキャラの報恩くん・運ちゃん・あかほんくんに出迎えられ堂内に入ると、満堂の御影堂に響き渡る雅楽や海段耳に聞こえるのうた十海のお勧めに自然のうちに手が合わさった。

隣の阿弥陀堂では、釈迦如来・弥勒菩薩・阿彌尊者

の釈迦三尊や、漆金箔が押し直されたお内陣が特別公開されており、貴重な場面に巡り合うことができた。

二日目に、大阪の八尾別院を訪ねて、本願寺第12世・教上人にまつわる数多くの法宝物を、同じく八尾の慈願寺では、昨今見かけることが稀な太鼓樓や築地塀などの真宗寺院の景観を拝見することが出来た。

この後、運如上人「御文章初法座」が営まれた本願寺派の別院では、多くの法宝物を拝見したうえで、貴重な話を伺いした。

このように、真宗門徒として先人の教えを戴きながら参拝することができた団体参拝となり、参加者の表情は満足感に溢れるものであった。

若南市の第14組・蓮成寺では、親鸞聖人のご生涯をより身近に感じてもらおうと、子どもたちと共同で「しんらんさま紙芝居」を作成し、11月22日の報恩講において披露された。

蓮成寺では、子ども会や若いお父さん、お母さんを対象とした若手会に力を注いでおり、その活動の一環として企画された。

親鸞聖人の生涯を御絵巻や絵本を参考に、子ども達を中心に親子が協力して、絵を描き色を塗り数場面を作成し、これに御絵巻などの場面を組合わせて完成した紙芝居である。

住職は、今後子ども達とも相談して改良を重ね、更に精度の高い紙芝居を完成

# 報恩講二話



## 映画監督 広田奈津子氏を招く 第9組報恩講厳修

町寺 良徳  
吉源 徳

## 子どもたちが描いた 親鸞聖人の紙芝居

第14組  
蓮成寺

## 本堂改修落慶 親鸞聖人七五〇回御遠忌 法要厳修

第12組  
本誓寺

## 新たな出会いを求めて 寺コンを開催!

第12組  
本誓寺

## JAの建物の保障「建物更生共済」は保障範囲の広さが自慢です!

10233315337

～生活の中心に南無阿弥陀仏を～



秋晴れの好天に恵まれた11月12日、第9組では吉良町・源徳寺において報恩講が厳修され、講師には現在話題の映画「カンタ・テイモール」の監督・広田奈津子氏が招かれた。

氏は、幼少の頃、宅地開発で失われていく動物のいのちのちと、人間の子で自分のいのちのちの違いについて受けたと話された。

私達が、普段の生活のなかで「一個」を中心としている現在の風潮においては、人と人との関わりを大切に、真実の教に繋がるような東ティモールの人々の感性こそが、人間同士がいがみ合うことのない、これからの世界平和に向けて重要であると教えられた。

現在、親鸞聖人のご生涯をより身近に感じてもらおうと、子どもたちと共同で「しんらんさま紙芝居」を作成し、11月22日の報恩講において披露された。

蓮成寺では、子ども会や若いお父さん、お母さんを対象とした若手会に力を注いでおり、その活動の一環として企画された。

親鸞聖人の生涯を御絵巻や絵本を参考に、子ども達を中心に親子が協力して、絵を描き色を塗り数場面を作成し、これに御絵巻などの場面を組合わせて完成した紙芝居である。

住職は、今後子ども達とも相談して改良を重ね、更に精度の高い紙芝居を完成

また、昨年の御遠忌を機に作られた「運成寺ゆるキャラ池端の介」と、寺の電話番号が描かれたマグネットを本堂落慶一周年記念としてご門徒に配布された。

この日は、バイオリン演奏や蓮成寺婦人部他の皆さんによる合唱も披露された。

昭和20年の三河地震の際に、甚大な被害を蒙った第12組・本誓寺の本堂は、その修復が切望されていたところであるが、この度、寺を支えてきた門徒をはじめ、町内や宗派を問わない有縁の方々熱意が堂宇改修の原動力となり、積年の願いが叶い達成した。

秋空が広がる11月22日、本堂改修落慶法要が、親鸞聖人七五〇回御遠忌法要と併せて盛会裏に厳修された。

この記念すべき事業を祝って催された稚児行列には、近隣各地から一六一名の稚児が参加し、家族とともに郷中を練り歩き、本誓寺へと進む賑々しい行列となった。

午後の御遠忌法要では、厳かな勤行に続き、同朋大学大学院教授・田代俊孝師より記念法話を戴いた。

本誓寺の実なる興隆が予兆される一日であった。

賑々しい行列となった。午後の御遠忌法要では、厳かな勤行に続き、同朋大学大学院教授・田代俊孝師より記念法話を戴いた。

本誓寺の実なる興隆が予兆される一日であった。

第12組浄徳寺本堂の入口脇に、可愛い小坊主さんの絵に「よくお参り下さいました」のイラスト看板が置かれている。因みに、この裏面には「お気をつけてお参り下さい」と記されている。

10233315337

～生活の中心に南無阿弥陀仏を～



配布されたゆるキャラ入りのマグネット

また、昨年の御遠忌を機に作られた「運成寺ゆるキャラ池端の介」と、寺の電話番号が描かれたマグネットを本堂落慶一周年記念としてご門徒に配布された。

この日は、バイオリン演奏や蓮成寺婦人部他の皆さんによる合唱も披露された。



本誓寺の本堂改修落慶法要の様子

また、昨年の御遠忌を機に作られた「運成寺ゆるキャラ池端の介」と、寺の電話番号が描かれたマグネットを本堂落慶一周年記念としてご門徒に配布された。

この日は、バイオリン演奏や蓮成寺婦人部他の皆さんによる合唱も披露された。

10233315337

～生活の中心に南無阿弥陀仏を～

## 文十鳳凰殿

365日 24時間受付 あんしんダイヤル

# 0120-565-542

西尾中央斎場・矢田斎場・幡豆斎場・碧南斎場・一色斎場

2016年春 吉良斎場オープン

http://www.bun10.com 株式会社クロト

ご家庭には国産仏壇を!

国産金仏壇専門店

# 永代屋

西尾市国森町郷北5-4  
Tel 0563-56-1659

西尾 永代屋 検索

# カルチャーウォーク その20 決の三ヶ寺 専修坊を訪ねる

高浜市 本郷町

三河真宗教団の礎は連如上人の功績によるものである。応仁2(一四六六)年、上人は応仁の乱を逃れ、近江から三河の地へ布教の場を移され、上宮寺の佐々木如光を中心とした門弟たちが多くの道場を開いた。

浜の三ヶ寺の一つ、蓮如上人縁りの第15組専修坊に第42世住職・星川暁師に話を伺った。



山門を漕り境内に足を踏み入れると、縦横13間の大伽藍が目に飛び込み、二千坪余の境内には荘厳な庫裡・書院客殿や広大な庭を擁し、浜の三ヶ寺の風格が漂っている。

寺の由緒書によると、祖先星川皇子後風皇胤常覺入道・高取11代の孫である星川九郎太郎光信が貞観元(八五九)年、三井寺の開山(智証大師)の弟子となり開教と称し、貞観10年この地に寺を建立した。

寺は、高取山聖徳院専修寺といいた天台宗の寺であったが、第16世・願祐の時、三河矢作村(岡崎市)の柳堂に宗祖親鸞聖人が化導されたのを機縁に真宗に改宗した。

専修坊中興の祖といわれる第22世溪玉は、本願寺第8世会をもたらしした訳で、戦後70年を思いひたすら感謝です。

## 門徒の声

### 戦後70年の回顧

#### 第8組・安樂寺総代 神原 一三

昭和20年1月三河地震・同年8月終戦・同28年台風13号・同34年伊勢湾台風など、戦争と天災の恐ろしさを身をもって体験したのは、私達の父母の世代です。

これらの恐ろしい体験と貧困を経験する中で、懸命に生き、必死に働く姿を見ながら私達は育ちました。この先人のご苦労が今日の平和で豊かな社

指導者の一人として殉難した。三河地方における蓮如上人の御旧跡としては、西端・鷺塚(碧南市)・土呂(岡崎市)・浅井(西尾市)などが挙げられるが、その教線拡大に尽力したのが蓮如上人の側近として仕えた佐々木如光である。

西端は如光の出世地であり、一帯に広がる「油ヶ淵」は、地元では「蓮如池」と呼び、如光はこの地に住む感の化身であるというほど存在感があった。

22世溪玉も如光の門弟であり、専修坊は、恩任寺(高浜市・西方寺(碧南市))とともに「浜の三ヶ寺」として真宗の興隆に貢献した。

高取地区のご門徒宅には、蓮如上人直筆のお名号が多数現存し、上人は西端の心仁寺に逗留して専修坊をはじめ近隣の寺院などに足繁く通って教化に励まれたと思われる。

その折、上人はお百姓さんの苦勞を見て「お百姓さん達が名号の苗を植えたならば、どれだけ浄土往生を遂げることが出来るか」と言って、百幅名号を書いたと言われる。

当山の法宝物は、「教行信証証書本」・本尊法身尊像等、蓮如上人遺品の一部と共に市の文化財指定を受けている。

第36世法澤は、明治4(一八七二)年の醫家仏教排斥騒動(大浜騒動)の折、護法の会をもたらしした訳で、戦後70年を思いひたすら感謝です。

安樂寺のこと

私は、23歳で父・25歳で祖父を亡くしましたが、その年に結婚し家庭を持つと同時に安樂寺のお世話方を仰せつかり、今日までお勤めさせていただいています。

平成28年3月26・27の両日、戦後70年物故者感謝法要・親鸞聖人七五〇回御遠忌法要を勤修致します。皆さま是非ともお参り下さい。

葬式

父と祖父の葬式は、村の人々が二人一組で自転車や徒歩で参り、お勤めを流して下さいます。

## お寺の保存樹木 碧南市指定・保存樹木 西光寺のイチヨウ



碧南市浅間町4-13 第14組・西光寺境内 指定・平成6年11月

根回り 六・一米  
胸高囲 三・九米  
樹高 約二五米  
樹齡 約二三〇年

## 第2回 赤羽御坊俳句会 27名が吟行

第二回赤羽御坊俳句会は、大銀杏の葉が日毎に色を増す11月16日、27名の皆さんの参加のもと開催された。

この日は、暖かい陽光が別院の境内に降り注ぐ絶好の吟行日和となり、一人3句までの投句と、目を閉じ、時には指を折りつつ筆を走らせる姿があちこちで見られた。

屋敷を挟んで全投句作品78句の中から、全参加者一人5句による選句会で、最優秀賞選出された氏以下15名を選び、顕彰し、俳壇白桃主宰・齋藤朗師より講評をいただいた。会場では、次回こそ「二色町で一番の桜」が咲く4月に開催を望む声がかかれた。



顕彰式の様子

## 葬儀あれこれ 身内2・お寺さん6

真宗門徒の葬儀では、お寺さんは二人が多いですね。しかし、他宗ではお寺さんが大勢おみえになり、俗に片鉢・4人、両鉢・6人、更には侍者付・三導師となる9人で勤められます。

これは、とある身寄りの少ない方の家族葬でのことで、遠縁の方が二人だけで葬儀を出されることになった際の出来事です。

住職には質素にとお願いするも理解が得られず、僧侶6人身内2人の葬儀でお布施も相当額となり、身内の方に多額の負担が生じました。

家族や親戚間の付き合いが稀薄になりつつある昨今、人はそれぞれに様々な事情を抱えているのかもしれない。やり直してできない大切なお葬儀ですから、お寺さんと葬儀社との話は、しっかりと打合わせをしておきたいものです。

## 第2回 赤羽御坊俳句会優秀作品

- 平成27年11月16日 於・赤羽別院
- 輪番賞 飛び交へる 虫に音なし 枇杷の花 蓮沼たけし
- 門徒会長賞 盛り無き 日数を咲ける 冬桜 齋藤 佳織
- 教化センター主幹賞 蛇寄せて 一蝶寄せて 枇杷の花 古賀 敦子
- 佳作
- どっしりと 楼門を置く 冬の空 名念美枝子
- たも双樹 寺唇を重ね 冬に入る 鈴木 隆子
- 綿虫の 漂ふ御坊の 庭静か 水頭うた子
- 落葉踏む 音に色あり 香りあり 加藤 久子
- 冬馬の 声も津城に 降りやまず 三浦 真樹
- 丸石に 一灯のごとく 石路の花 信川 芳枝
- 裸木は 猿の腰掛け 曝け出す 近藤 章枝
- 冬の雲 編みこむように 枝並木 梶本 幸子
- 冬浅し 慕の家紋を 見て還る 齋藤 朗笛
- はだか木の 根分れ桜 堂もななく 中村 光児
- 山茶花や 忘れ去られし 弓道場 牧野 康子
- 冬構え 寺には優ぐ 四脚門 三浦 貞葉
- お知らせ 定例の第13回御坊俳壇・川柳の締切は、2月10日(水)です。奮ってご応募下さい!

## 祝! 御成婚

- ◆第9組 正覺寺若院 櫻部 開 師
- 夏目 真理恵 さん
- 平成27年10月24日 挙式
- ◆第13組 明榮寺若院 小谷 峻 師
- 高橋 純 さん
- 平成27年10月17日 挙式
- おめでと〜ございませう

## 訃報

- ◆荒川 裕子 様
- 第10組・瑞玄寺前坊守
- 平成27年9月21日 御命終
- 享年 88歳
- ◆藤原 宗昌 師
- 第9組・源徳寺前住職
- 平成27年11月6日 御命終
- 享年 89歳
- ◆菱川 さつき 様
- 第12組・篤信寺前坊守
- 平成27年12月6日 御命終
- 享年 93歳
- 謹んでお悔やみ申し上げます

### お寺の掲示板

たとえ未熟であり  
稚拙であっても  
しかし、決して  
粗雑であってはなりません  
第十二組 玉照寺

- ### ご懇志披露
- ◆物品寄贈  
卓上時計 1個・雑布 50枚
- ・神谷 光明様(第12組浄徳寺門徒)
- ◆赤羽御坊新聞懇志  
・第10組 殿西寺同行中様  
・第11組 唯法寺同朋会様
- 貴重なご懇志を  
ありがとうございます

### 編集室

赤羽別院では、昨年も報恩講が無事に厳修されました。記事の中でも触れておりますが、地域世話方やブロック世話会をはじめ、大勢の皆さんのお力添えなくしては、とても成功させることができない一大仏事でありました。

お寺さんがどれだけ張り切ったところで、各種の行事は言うに及ばず、寺院の運営面においても門徒の皆様方のご協力あって、はじめて成り立つていくものです。お寺と門徒という立場の違いがあったとしても、同じように真宗の教えをお聴かせいただく御同朋なのです。お寺さんが上で門徒が下ということではありませんが、共に聴かされていたいくお仲間という事です。

昨今では、宗教不要論が罷り通る世相となり、仏教は類縁の途を辿りつつあることは否定できませんが、私たちは自分の両足がしっかりと大地を踏みしめて生活しているのかと、改めて問い直されているような気がいたします。

門徒だけではなく、お寺においてもこの問いを正面で、自分のこととして受け止めて、お互いに自分自身を見つめ直していくよご縁ではないかと思えます。

「今、いのちがあなたを生きさせている」